

日本版ホスピタリスト の育成を 支援します



当財団は、日本・海外間の医学・医療の交流を目的とし、フルブライト基金の日本版を目指して、1988年厚生省の認可により設立された公益財団法人です。

日本版ホスピタリスト 助成の背景

現在日本の医学・医療界の抱える①高齢化と認知症患者の増加、②マクロ的な医療費問題、③厳しさを増す病院経営、といった前例のない問題に対する打ち手として、いわゆるジェネラリスト（総合診療医・総合内科医）の必要性が望まれています。日米医学医療交流財団では、このような課題を解決できる医師の育成のためには、すでにここ20年来、米国で飛躍的に増加してきたホスピタリストに学ぶところが大きく、そこから日本の直面する課題への意味合いを抽出し、実現していくことの重要性を認識し、当財団の新たな戦略方向として、米国における研修を通じた「日本版ホスピタリストの育成」（注）のための助成に軸足を置くことと致しました。

（注）ホスピタリストとは、病院のニーズから生まれ、この20年、米国で最も成長した専門科です。米国では、ホスピタリストは、「入院患者に対して包括的な医療を提供し、病院・医療システムのパフォーマンス（医療の質・運営）の向上に尽力する医師」と定義されています。米国では各診療科の専門医は、専門分野に特化した診療を行っていますが、ホスピタリストが診療科横断的な機能を果たすことにより、病院の医療の質・運営のレベルアップを目指しています。現在57,000名程度存在しているとされています。当財団は、米国のホスピタリストを日本の医療制度・病院システムを前提にカスタマイズした「日本版ホスピタリスト」の育成を目指します。「日本版ホスピタリスト」とは、「病院に常駐し、主として入院患者を対象にチーム医療の質の向上に貢献する医師」という幅広い定義を置いています。

助成の内容・応募に あたって

当財団の助成は、臨床研修期間により、[1] 長期助成（1年以上の臨床研修期間）及び [2] 短期助成（1年未満の臨床研修期間）の二種類があります。

[1] は、たとえば、① Internal Medicine、Family Medicine 等の分野でレジデント（臨床研修、以下同）を希望する医師、②レジデントを修了し、今後 General Internal Medicine フェロウシップ等の専門研修を目指す医師及び③レジデントを修了し、今後さらにホスピタリスト等のステップアップを目指す医師などに対する助成です。

[2] は、海外におけるホスピタリストの役割・働き方に対する理解を深め、体験を積める研修プログラムへの参加を助成します。短い期間でも実際にその役割、働き方、を直接見聞きしてくることはその後のホスピタリストとして活動するうえで非常に有効であるといった意見もいただいております。具体的には、たとえば、1-2週間あるいは数か月間、米国のホスピタリストである医師のもとで研修する機会がこれにあたります。

なお、長期・短期共に、研修中・研修後を通じて、日本版ホスピタリストの定着、拡大及び育成に主体的な役割を果たすなどして貢献し、価値の高い医療の提供に貢献していただくことを前提としています。

日本における定着に むけて

日本版ホスピタリストの育成のためには、米国等海外における最適な環境の確保が不可欠です。長期の場合にはこれまでの助成と同じように留学希望者がマッチングシステムにより留学先を特定することが前提となります。一方短期研修先については、受け入れ先との直接の交渉がベースになることから現在、日本において活躍する総合診療医・ホスピタリストの先生方による協力を通じ、海外における受け入れ先の確保に尽力しております。

また、助成対象者が日本に帰国した際の受け入れ先病院の選定も重要です。この助成を活用してホスピタリストに挑戦しようとする医師を支援するためにも、帰国後に日本版ホスピタリストの医師が活躍し、そのパフォーマンスを最大限発揮する環境が必要です。当財団では、このような目的のため、助成対象者の日本における受け入れ先のネットワーク病院も構築中です。既に多数の病院からネットワークへの参加のご要望をいただいております。ご興味のある方々は、当財団までお問い合わせください。

具体的な募集の内容については、当財団ホームページをご参照ください。

助成事業について：<http://www.janamef.jp/programs/>

お問合せ Email: info@janamef.jp（公益財団法人日米医学医療交流財団 事務局）

